

令和7年度 第4回佐久市総合計画審議会 議事録

日時：令和8年2月16日（月）

午後3時～4時15分

場所：浅間会館 会議室1・2

【出席者】坂江会長、小嶋副会長、滝沢委員、柳澤委員、高橋(康)委員、太田委員、鈴木委員、渡辺委員、井出委員、二村委員、木内委員、飯沼委員、重野委員、堤委員、麻生委員、坂戸委員、中嶋委員、小林委員、伊藤(明)委員、須江委員、三石委員、中澤委員、小松委員、山澤委員、川崎委員
以上25名

【事務局】木内企画部長、市村企画課長、小林企画調整係長、鷲見主任、大塚主任、中澤主任、久保田主事、井出(顕)主事

◎会議事項

1 開会

2 あいさつ

- ・欠席委員報告（北山委員、伊坂委員、池田委員、阿部委員、伊藤(康)委員、高橋(渉)委員、松崎委員、大井委員、東城委員）

3 議事

(1) 第三次佐久市総合計画「はじめに」「基本構想」骨子案について

会長	議題の(1)『第三次佐久市総合計画「はじめに」「基本構想」骨子案について』事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画「はじめに」「基本構想」骨子案について 《資料1-1、1-2、1-3、1-4に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	アンケート結果、ニーズ調査等を基にした計画づくりとなっているかと思う。前回の審議会では、30代、40代、50代の人のニーズはどうか、移住されてきた方はどんなふうに思っているのかなど、中高生アンケートや市民アンケート結果において示していただいたが、現在あるデータの中で若手の働き手、子育て世代のニーズなどが、分かることがあるだろうかという御質問もあったかと思う。アンケート分析を続ける中で、お気づきの点があれば教えていただけるか。

事務局	<p>アンケート結果について、年代別にどのような施策が必要なのか、重要なのかと分析していくと、30代、40代、50代での就職の働き口についてのニーズの重要度が高かった。</p> <p>今回の計画の中においても、稼ぐ力や働く環境に関する記載を取り入れている状況である。</p>
委員	<p>働き手という意味では、これからの人口減少や労働力不足などに向けて必要であり、あるいは女性活躍や多様な担い手の力を借りるということも大切になってくると思う。</p>
委員	<p>市民ワークショップやアンケートはすでに終わったということであるが、今後の実施はないのか。</p> <p>資料1-2の14ページでは、10年後の人口減少を3,700人抑止するとしているが、どのあたりの年代層の人口を増加させるのか、歯止めをかけることを狙っているのか。</p> <p>資料1-3の7ページで人口構造について、ピラミッドでの図が示されているが、働き手ということで、20代、30代、40代、50代について話があったが、全国的に見ても長野県で見ても佐久市で見ても、20歳から29歳というところが突出して窪んでいる状況が伺える。また、一度首都圏に出た女性が戻ってこないという話を伺ったが、このあたりの20歳から29歳の若者、特に女性をターゲットにしてもう少し詳細の部分について、本音を知る機会があってもよいと思う。例えば、その年代に限ってもう一度アンケートをすとか、あるいは少人数でもワークショップを開いてみることなど検討してみてもどうか。</p>
事務局	<p>今後ですが、アンケートやワークショップの予定はないが、各種団体等へのインタビューという形で女性活躍や、移住者のニーズなどについて関係団体等へ実施する予定である。今回のアンケートやワークショップで様々な意見をいただきましたが、深掘りするべき分野についてのインタビューを今後させていただく。</p>
委員	<p>中学生や高校生、未来の子どもたちに対してのアンケートをとり、基本構想に入れていくという考え方はとてもいいと思う。また、子ども・子育て支援拠点施設もでき、すばらしい施設であると感じる反面、今後10年間で、さらに高齢化が進むことが予想されるが、高齢者に対しての快適健康都市に係る施策はあるのか</p>

事務局	<p>お聞きしたい。未来の子どもたちに対する事業は割と実施できていると感じるが、高齢者にとって生きがいを持って快適に生活できるような計画ということは基本構想の中に含まれているのか。</p> <p>基本構想の「はじめに」において、多様な働き手というところで、高齢者の方にもお力をいただきたいと記載している。</p> <p>今後、前期基本計画の策定の際に、49施策においてどのような取組を実施するのか各課に洗い出ししてもらおう中で高齢者に向けた取組内容が具体的になっていく。</p>
委員	<p>基本構想の基本理念において、一番目については、若者や高齢者など多様な人たちが生き生きと働ける経済的な体制や、産業づくりなどをしていくということが分かる。三番目についても、安心・安全は何かと考えたときに、子育て支援や防災・減災の充実、人と人の繋がりを作りたいということが読み取れる。しかし、二番目については、佐久に住みたい、暮らしてみたい、良いところだなと思えるようなまちづくりをしたいということは分かるが、何をするのが具体的に見えてこない。例えば、冷涼である、標高が高いなどと記載されているが、それによってどんなことをイメージして、どのように生かしていくのか、現時点で考えていることがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>冷涼な気候や標高については、例えば農業という佐久市の大きな基幹産業の一つで考えた際に、標高の高低差によっては病虫害の発生が全く違うということや、冷涼な気候であるため有機栽培に適しているだとか、無農薬栽培に適しているなどのように、産業に対し付加価値をつけることができる。その他、佐久市の持つ卓越性についてしっかりと探求していこうとするものである。</p>
委員	<p>医療環境の充実や高速交通網の充実などが挙げられているが、この理念に対して私たちは何をしなければならないのかが具体的に検討されていかねばならない。</p>
委員	<p>計画を作って、それに対してどうやって動いていくのかということは非常に大事で、全員が同じ方向を向いてくことで成り立つということは分かる。ただ、内容によっては、10年とする必要があるのか、あるいは計画が10年で本当良いのかなどが考えられ</p>

	<p>る。当然エネルギー問題や環境問題、人口問題などは 10 年で片付かない問題でもある。そういうものは当然長く、国の政策などを見て対応せざるを得ないと思うが、抽象的なことや、国が述べているようなことを計画に落とし込んでいるだけで、市民にとって理解しやすい計画になっているのか。市民にとっては、目指すだけか、必要だけかではなく、何をやるのか具体的に示してもらいたい。自己満足の世界で、毎回 10 年たって、見直してではなく、結果がどれだけ反映されているのか市民にとって実感がなければならぬ。できるだけ具体的な計画に示してもらいたい。</p>
委員	<p>資料 1-2 の 11 ページ、12 ページ、13 ページあたりが、この計画における一番大事な憲法みたいなものであるかと思う。非常に前向きな感じであり、若い人たちにとっても勇気をもらえるような計画であると感じた。ただ、少し気になるのが本当に生活に困っている方や、高齢者の方の話もありましたが、今すぐ生活に不安を抱えており、今後どうしようと思っている方がこの計画の理念などを見たときに、取り残されてしまうのではないかと感じた。力強く進める部分もありつつ、弱者への配慮についても理念の中で触れてみても良いと思う。</p>
委員	<p>文章表現についてももう少しやさしい配慮も必要だというお話がありました。資料 1-3 の 36 ページにおいて、佐久市の主要課題の「自然との共生と強靱な都市基盤の整備」について、この計画の次の計画は 10 年後という中で、近年我々が日常的に感じている気候変動や全国的な災害の激甚化などは、年を追うごとに特に多くなってきている。この部分の文章表現については、10 年先まで見据えた中で、今何をすることが必要かということも逆にもう少し強い言葉で記載すべきである。「自然災害の激甚化・頻発化を招いており」については「喫緊の課題であり」のような差し迫った感じが良いと思う。「グリーン社会への転換が求められている」よりも「転換が急務である」のように佐久市として緊迫感がある文章表現にしてはどうか。</p>

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけについて

会長	議題の(2)「まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけについて」事務局から説明をお願いします。
事務局	まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけについて 《資料2に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	重点プロジェクトというフィルターを通してながら、49施策の事業を行うということか。
事務局	はい。その重点プロジェクトに総合戦略の内容を入れ込むという形である。
委員	現在の重点プロジェクトと総合戦略の違いは何か。
事務局	総合戦略は人口減少に立ち向かい、地方の活性化を推進する計画である。総合計画における重点プロジェクトはそういった計画とは異なり、総合計画において49施策を進めていくために、横断的に共通の認識として持つために定めたものであり、ここには地方創生や人口減少対策などについて示されていない。
委員	包含することで、今までの会議体の持ち方について何か変わるか。
事務局	これまで総合計画と総合戦略の2つの計画の進行管理について、各部会にて審議会を実施したが、この包含によって、総合計画のみの進行管理で対応できることから、回数の削減や審議内容の深堀などが考えられる。
委員	佐久市の総合計画というのは、約20年前から作っている計画であり、10年間隔で、さらに前期・後期で5年ごとに基本計画をつくるというものであり、どの地方自治体においても、長年続けている計画である。一方、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、いわゆる地方創生の中で、国において、人口減少が加速化しているので、新たにつくるということから、県も市町村もつくること

	<p>となり、その中でも一番は交付金がつくというところが大きい。交付金も総合戦略に位置づけた事業についてはしっかり国において支援するということから、今までの長野県もそうであるが、総合計画とは別ラインでこの総合戦略をつくらざるを得なくなったところである。ところが、両計画の中身が似て非なるものであり、総合戦略は確かに人口減少にかなりフォーカスしたものであるが、総合計画は今まであまり人口減少というのはファクターとしてはなかった。したがって、各施策に横断するようなものについて、総合計画の中で重点プロジェクトとして位置づけてきたところに総合戦略の考え方を含めていくという認識である。長野県の計画もやはり総合計画に総合戦略を入れ込むという形で進めているが、非常に行政上のテクニカルな部分もあり、普通の人は誰もわからないと思う。要は、交付金を活用するために作成した計画があつて、それが技術的なものになってしまっているため統合しようとする動きが各自治体でも始まっているということであると感じている。</p>
委員	<p>様々な事情背景があるようだが、まだ全面的に確定ではないということではよいか。</p>
事務局	<p>はい。重点プロジェクトに総合戦略を位置付けるという方向性についてはこの通り進めさせていただきたいと思っている。</p> <p>今後、これに基づいて各課において事業の洗い出しになるが、その際に総合戦略の考え方を踏まえながらまとめていくこととなる。</p>
委員	<p>これまで総合計画のこの審議会や各部会においても、人口の増加や地方へ他地域から人口を呼び寄せるためにどういうことが必要なのかという具体的な意見が出ていたので、それらが生きてくるのではないか。</p> <p>他の部会においても同じような具体的な意見が出ていたと思うので、もう少し反映できると良いのではないか。</p> <p>重点プロジェクトが計画の中に盛り込まれた具体的な資料はいつごろできるか。</p>
事務局	<p>各課の洗い出しを行い、前期基本計画の骨子案を固めていくことになる。その際に、重点プロジェクトの具体的な位置づけが見</p>

委員	<p>えてくる。5月の審議会において示す予定である。</p> <p>資料2の3ページにおいて用語解説がない。例えば、「アンコンシャスバイアス」、「ワットビット連携」、「産官学金労言士」という言葉があるが、意味を教えてください。</p>
事務局	<p>「アンコンシャスバイアス」は、無意識に決めつけることで、これは男がやるものでしょうか、女性がやるものでしょうか、うちの地域はこうだからなど。</p> <p>また、「ワットビット連携」は、電力 (Watt) と情報通信・データ処理 (bit) のインフラを一体的に整備・最適化し、AI 普及に伴うデータセンター (DC) の電力需要増と脱炭素化を同時に解決するもの</p> <p>「産官学金労言士」は、地方創生や地域課題解決に向けて連携・協力する7つの主体の頭文字をとった言葉である。</p>

4 その他

会長	全体を通して、委員の皆さんから何かあるか。
委員	(なし)
会長	事務局から何かあるか。
事務局	次回は5月の開催を予定しており、日程が決まったところで追って連絡する。
会長	以上で議事を終了する。

5 閉会